

授業科目名 ( 英文名 )	中級マクロ経済学(E) ( 経済学部・専門教育科目 ) ( Intermediate Macroeconomics(E) )	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	
担当教員	大住 康之	所属	
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	資本主義経済において不可避免的に生ずる中期の経済変動、ならびに長期の経済成長のメカニズムの基礎的理解を深めることが本講義の目的であり目標である。(This course is to provide the basic knowledge of the mechanisms of business cycles and economic growth in the medium-run and long-run macroeconomics.)		
講義内容・授業計画	<p>講義内容：前半では経済変動を中心に、後半では経済成長を中心に講義を進める。          授業計画：各テーマについて1～3回講義</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．ダイナミック・エコノミクスとは：浮力の原理と動的思考、</li> <li>2．経済変動と経済成長のアプローチ法：中期と長期、循環と趨勢、</li> <li>3．古典派の経済変動：生産性ショック、</li> <li>4．ケインズ派の経済変動：需要ショック、</li> <li>5．景気循環の種類：4つの波、</li> <li>6．中間試験、</li> <li>7．経済成長率：複利効果と70の法則、</li> <li>8．成長の源泉：資本蓄積と技術進歩、</li> <li>9．新古典派成長理論（ソローモデル）：カルドアの定型化された事実、</li> <li>10．内生的成長理論：研究開発の重要性、</li> <li>11．経済成長と構造変化：クズネットの事実</li> <li>12．経済成長と所得分配：ピケティの事実と格差拡大メカニズム(<math>r &gt; g</math>)</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. The medium-run : AD-AS model</li> <li>3. Business cycles</li> <li>4. Midterm examination</li> <li>5. The long-run : Growth model</li> <li>6. Capital accumulation and technical progress</li> <li>7. Solow model: Kaldor's stylized facts</li> <li>8. Growth and structural change: Kuznets facts</li> <li>9: Growth and long-run income distribution: Piketty's facts and <math>r &gt; g</math></li> </ol>		
テキスト	Blanchard,O.J., Macroeconomics, 7th edition Pearson,2016. (『ブランシャール マクロ経済学』(東洋経済))		
参考文献	Jones,C.I. Introduction to Economic Growth,Norton ( ジョーンズ『経済成長理論入門』日本経済新聞社 ), 同 Macroeconomics ,Norton (『ジョーンズ マクロ経済学』東洋経済新報社)、齋藤・岩本・太田・柴田著『マクロ経済学』(有斐閣)、鶴田・足立・藪下著『初級・マクロ経済学』(有斐閣)、足立英之著『マクロ動学の理論』(有斐閣)、ピケティ著『21世紀の資本』(みすず書房)等。適宜指示。		
成績評価の基準・方法	中間試験(40%)と定期試験(60%)。		
履修上の注意・履修要件	ミクロ経済学、マクロ経済学を履修済みの者が望ましい。		
実践的教育	該当しない。		
備考	専門はマクロ経済学。とりわけ、経済成長、所得分配、技術進歩に関心がある。		